
兵庫県伊丹市大字 北村の小字地名

■北村(辻村・伊丹坂村・野村・鋳物師村)

明治18年に合併され、北村となった本村は、辻村・伊丹坂村・野村とともに「大路の庄」あるいは「大路4カ村」と呼ばれていた。

「西国街道たる大道路に沿っている村落であったから」という。(川辺郡誌)

北は川西に接し、その北から西に伊丹段丘が走り、東に猪名川で下河原・中村と境をなしている。地形から大別すると、(1)西側、伊丹段丘の上の部分。(2)(伊丹段丘の下の西側)中央部、地区割りがほぼ四角形をなしている地区。(3)(伊丹段丘の下の東側)東部、地形が複雑に入り込んでいる地区の3つになり、(1)の地区には鋳物師村、伊丹坂村、野村の集落がある。(2)の地区には「六ノ坪」という「条里制」と思われる地名が存し、区画がはっきりしている。(3)の地区には本村および辻村の集落を有するところであるが「飛び地」が非常に多い。「飛び地」はほぼ当北村の中央の部分を中心に、北「飛び地」はほぼ当北村の中央部分に、北西(現在は自衛隊)・北東(現在は北伊丹駅)その南、さらに伊丹坂上の東の端とに、数多くみられる。

鋳物師の集落は往古「いもじ千軒」と称され鋳物師が軒を連ねて繁栄したといわれている。昭和33年春、鋳物師の集落内(字 南良蓮寺)に銅製の水煙が発見され、さらに発掘されて、法隆寺と同じ様式を持つ「伊丹廃寺」と名付けられた寺の遺構が確認された。その壮大さは、自衛隊総監部前(南)に復元された金堂の基壇からも窺える。さらに、その東(字辻ノ内)(防衛庁の官舎のある所)からも発掘があった。その後、同じところに良蓮寺(後述ロウレンジ流蓮寺またはドウレンジ道蓮寺)が建てられていた。その存在は確認されており、南良蓮寺、北良蓮寺の地名も残っていた。また、この地に隣接する川西市の久代に「寺」および「屋敷」に関係する地名がたくさんある。以上のことから、この鋳物師あたりがこの北村の「最初の地」かもしれないし、あるいは、元は下(伊丹段丘の下一現本村あたりか?)にあったが、猪名川の氾濫などで上(鋳物師地区)にあがり、集落を造り、前述の「寺」を作ったのではないかと推量されて興味惹かれるところである。産業道路の拡張および下水道工事の現場(字西ノ口)にて、鎌倉時代の屋敷の遺構が発見された。伊丹段丘の東の崖(特に現在の北園あたり)を「イヤノシタ」といっていた。日当たりが悪く、湿地帯であり、ジメジメしていた。

■交通

西国街道と多田街道(多田院に向かう)の交差点があり、現在はこの地にそれを証する「辻の碑」がある。(ここは辻村の八幡神社があった)

※辻の碑

本町(伊丹町)の内、北村辻村にあり。伝説に源満仲の建てた所といい、高さ3丈横 2尺5寸の自然石にして、碑面に「距当時十里、距関戸七里、距須磨七里、距天王七里、距大小路七里」とあって、大小を距る七里以下土中に埋没し、今は草堂を以て囲みうやうやしくこれを、保存する。撰津誌に後人の疑作だろうという、また一書に「北村にあるもの、また、後世の作造なるべし、寺本にあるもの更に信じがたし」とあるが、古人多くの遺蹟を行基、満仲、村重等の事業にこ

じつける。けだし本碑のごときは西国街道成って以来、通行者の便を計り有志の建設せるものたるや明らかにして、何ぞ真偽を争う要あらん。辻村は当時本街道の要衝たりしを以て時人単に道程標としてこれを設けたるにすぎず、もし、これ建者を今にして判れば、却って後人の愚を笑わん。(川辺郡誌)

◎西国街道は東北に猪名川を挟んで隣接する下河原のほぼ真ん中をやや北東からやや南西に貫き堤防(これより北を「千石堤」という)に出てく、いったん河原にある皇大神社(下河原字宮ノ前。その後、下河原字柏原に移転)前を西に猪名川を渡り(渡し舟、人足、大正時代には土橋であった軍行橋)、北村側の堤防(「ごんでん堤」という)に上がり、それを北に少しさがり、ホウケントウ(北村・鋳物師村 27.南八人子参照)と呼ばれる辺りから堤防を下りて西へ行く。

「伊丹坂」は現在のように、広くなだらかなものではなく、もっと短く、しかも、もっと急こう配で、道の両側から竹が覆いかぶさっており、昼なお、うっそうとしていた。

◎多田街道は篠山から北村を通り、伊丹の北ノ口で伊丹郷町に入り、本町・植松を経て猪名寺から尼崎に至る重要な道であり、昔は県道になっていた。

■農業

水利は西北に加茂井、北から中心部にかけて谷川(「タニゴ」現、駄六川)、川西市の久代新田地区東の猪名川(ジャカゴ堰堤)から取水する東川および、猪名川からの直接取水による。特に果樹栽培がさかんであり、北村の畑は「果樹園」ともいえる。中でも「北村ぶどう」は「かとうぼ」と呼ばれ、赤色のいい品質であったが、酸味が多いのと病虫害に弱いため、後に開発された「河内のぶどうーデラウエア」にその地位がとってかわられた。品質は、「コップ一杯で一日中、身体がポカポカしていた」といわれた。また、なっているそのままに袋をかぶせて保存をした。鳥や蜂から守り、病虫害の防御にもなり、10月頃まで食べる事ができた。この保存の方法を「ナガモチスル」といい、まさに「長持ち」した。

※「キタムラブドウ」については「ふるさと春秋」(読売新聞阪神支局発行)に詳しく掲載されている。

また、みかんも栽培されていたが、カイガラムシに侵され、桃に変更した。「緑ヶ丘一帯もブドウ畑であった。」(鋳物師2丁目警察待機宿舎あたり)

■宗教

臂岡天満宮(臂岡天神)が鋳物師地区にある。

臂岡天満宮

臂岡天神：北村鋳物師村にある村社天満神社の一名にして、通称を鋳物師天神という。

境域清 頗る風致に富む。伝説には菅公左遷の折、この地に立寄りしをありしが、公赦免の帰途自筆の画像を寄す。その図、臂を枕に横臥せるものなるに因み、臂岡天神と称する由なるも、是また、甚だしき妄説にて、公は延喜元年時平一族の讒に会し、太宰権帥に貶せられ、同3年、貶所に薨じたる人なれば、斯かる事実の有るべき筈無し。今にその画像を神體とすというも、恐らく後人の作なるべく、北野聖廟より勸進せりをいうと正とすべし。(川辺郡誌) 伊丹村や辻村にも村社があつたが、臂岡天満宮に合祀されている。教善寺、発音寺、龍蓮寺、安楽寺跡、稻荷社

龍蓮寺：北村の西方「字鑄物師村」にあり。元この地は「鑄物師千軒入伽藍よそにや無いぞへ龍蓮寺」などといえる俚謡があるほどのところで、多くの鑄物師もある「非常に殷賑を極め、鑄仏、梵鐘、鍋釜、鉄瓶、犁先等の器具類を盛んに製出し、いまだに伊丹の犁先とてその名を留める事、当時 の盛を追想すべきものなり。龍蓮寺は鑄物師村の隆盛の時、七堂伽藍の巨刹であつたが、天正7年(1579年)兵火にあつて鳥有りに帰した。この後、寺跡に耕作を試みたが、収穫を見ることは出来ないで、今は雑木が生えている。一荒地となり果てた。周回一丈三四尺の大礎石土中に残存していた。龍蓮寺は一書に寺領八百余町を有るが信じがたい。(川辺郡誌)

川辺郡誌には「信じがたい」とあるが、どうであろうか、前述のように、久代地区にも「寺・屋敷」地名があり、さらに後述の辻村地区の「木仏」「石仏」までを含めると相当の面積となるが……………？

辻村・伊丹坂村・野村の小字

1. 西垣内 (ニシカキウチ) 北伊丹1、北園1~2

西国街道と多田街道の交差する、まさに「辻」であり、後記の「字前垣内」と併せて、この辻村の中心であり、村社の八幡神社(臂岡天満宮に合祀)や前記の「辻の碑」がある。この地域は、この街道の交点を底辺に北西に伸びた三角形になっており、その一辺が駄六川で、他の一辺は加茂井になっており(このあたりを「イヤノシタ」と呼ばれている)そして、北村の飛び地(字東殿開地・字西殿開地)を有している。垣内関連(野間、東桑津、南野)

2. 谷口ノ上 (タニゴノウエ・タニゴノカミ) (谷口上) 北伊丹7~8、北園2~3、鑄物師1・3・5

駄六川の北に「字谷川」の西に並んである。多くが飛び地であり、それはほとんど「中央部」にある。

3. 上川原 (ウエガワラ・カミガワラ) 北伊丹5・8~9

北村の北東の隅にあり、小さな2つの地区でさらに2つの飛び地がある。その中心の一つが「字北上川原」と「南上川原」に北・南から挟まれており、もう一つはその北側に隣接する「字北八人子」の中に含まれている。この形からみると「上川原」は何か意味を持つようである。

4. 河原 (カワラ) 北伊丹4~5

この地区は小さな所が多く、「字中田台坊」と交互になったところの他に五ヶ所ほどの小さな

飛び地になっている。

※「辻村」が村よりかなり離れた所を「上川原」「河原」の2ヶ所、しかもどちらも「河原」という地名をもつのは、どんな目的があるのだろうか。水利が関係していると考えられるが。

5. 前垣内（マエカキウチ）北伊丹1～2、北園1

辻村の南の中心部である。

6. 村畑（ムラハタ）春日丘4～6

伊丹坂村の中心部であり、この地区の東側には、村社の八幡神社(天満神社？一臂岡天満宮に合祀)があった。また、「和泉式部の墓」といわれるものがある。伊丹坂の真ん中から南へ、この地区に入る所、阪上氏宅北側に北向地蔵がある。門脇氏宅南東に小祠がある。また、南側は、文字通り伊丹坂村の畑で、前述しているが、ミカン畑であったが、カイガラ虫のため、桃畑になったと言われている。昭和22年～25年、兵庫県が宅地造成をし、今のような住宅地となった。

7. 野畑（ノバタケ・ノバタ）春日丘1～2・4～5、清水2・4

野村の中心であろう。現在「発音寺(ホツオンジ)」（7番地他）がある。また、村社の天満神社があった。一部は北中学校になっており、大鹿口とともに北村地区の南端になり、伊丹と接している。此の地も昭和22年～25年、兵庫県が宅地造成をし、今のような住宅地になった。

※有岡八景「野村の晩鐘」

夕鐘の 一つ冴ゆる 枯野かな	春人
山々も わらひ静めて 暮れの鐘	米女
黄昏 るる董の上や 鐘の声	清人

野村(ののむら)は春日丘地区の旧地名。発音寺で鳴らされる入相(いりあい)の鐘のこと。ここだけが景色でなく、鐘の音色である。発音寺は現在春日丘4丁目。以前、北村野畑といい、更に古くは野村という「ミカン畑」に囲まれた淋しい村落で、淋しさと不用心のために殆どの村人が他へ移り住んで行ったという。大正4年この「ミカンと桃の混じった畑」を用いて、最初に屋敷にしたのが「中村新吉」で寺の南西に接していた。ここから北は一軒も家の無い「ミカン畑」であった。この家は「野村の晩鐘」に接していた。発音寺は慶安元年(1648)僧浄入によって建立。享保20年(1735)南部七大寺の一つ律宗総本山招提寺から本尊十一面観音立像の寄贈を受け、槇尾山の大伽藍西明寺の末寺となった。その後経済的援助の無いままに明治6年1月廃寺のやむなきに至ったが、幾多の変遷を経て、現在は浄土宗鎮西派奈良光福院の末寺となっている。堂内には美しい大日如来立像一体があり、尚その他に異様な仏像三面大黒天がある。これは宝暦年間、大坂長町毘沙門堂から移されたもので、巨体の仏像が三面を向いている。本堂の外には、近年まれにしか見られない「地獄極楽」の絵画が画かれている小祠がある。「野村の晩鐘」と呼ばれた釣鐘は延享三年(1746)に鑄造されたもので朝と夕方5時を期して撞かれ、その鐘の音は近郊近在に響き渡った。

江戸時代の郷土史家、梶曲阜は「発音寺の鐘の音、はなはだよし、伊丹中によく聞こえて勝手が良い」と書いている。

この度の戦時中に供出させられたことは、いささか残念である。鐘楼は昭和28年の台風で壊れた。(次の霊林寺跡後段参照)

※霊林寺跡:伊丹町字阪の上に存する。往古、真言宗の巨刹であったが、元龜3(1572)年兵火のため烏有に帰したもの。いまなお、往々、この跡底から布目瓦の破片を出すことがある(龍蓮寺)。

その南方数十歩の地に飛鳥山発音寺あり、一に野村の庵と称す。安置するところの三面大黒天、観世音立像、不動明王および両脇立、勢至菩薩等いづれも稀有の傑作にて元霊林寺の尊佛であったものが、罹災の時に、その末寺であった故を以て、この庵に移し辛くも消失を免れたもの也という。(川辺郡誌)

8. 大鹿口 (オオジカグチ) 春日丘1~2・大鹿1~2、清水4

伊丹市民病院(現在アーバンコンフォルト)があったところである。なぜ、このような名がついたのか、西には「大鹿字門の前」と隣接しているがこの「門?」に入るための「野村からの大鹿口」であろう。

9. 道際 (ミチギワ) 春日丘2~3・5~6

伊丹坂村の集落の一部があり、その他は畑ばかりであった。野村の墓がある。西国街道を北に接し、南西に広がっており、現在のアーバンコンフォルトの北側にまであった。西国街道の「道際」であろうか?それとも、道際に何かがあったのか?バス道と伊丹坂との交差点の少し南、夜久氏宅前に小祠があるが・・・

10. 自然 (ジネン) 高台1~3・5

西国街道に接し、その北にあり、伊丹坂隣村の大鹿村までの地域で、しかも、そこでも自然という地名である。前述のように、少し北には「字東自然」「字西自然」があり、さらに南には「字南自然」がある。また、「字石仏」の飛び地を含み、これ自身3か所の飛び地を有している。また、地内には辻村および伊丹坂村の墓地と地蔵(北村鋳物師村 52.石仏参照)があり、さらに、この地の北端(大手光学器メーカーの東)に「幽霊坂(ユウレイザカ)」と呼ばれ、昼なお薄暗い急な坂道があり、この坂の東に「自然居士の墓」といわれる墓がある。「字自然」の飛び地になっている。現在、個人所有)

自然居士の墓:北村字自然の藪仲にあり。碑の裏面に「嗚呼自然居士自性木然留無變無遷」と刻しありて、地名を自然と称するも有之が爲なり。自然は荒木村重の息にして、京師にて殺害せられしを、後人憐れみて建碑せしものなりという。往時墓碑の傍石つを他に移せし所、忽ち夢に入りて本地に帰らんことを望む。依りて再び元地に戻せりとの故事あり。(川辺郡誌)

自然居士塚:川辺郡伊丹町の北にあり。所伝題する如し。猶旧屋の部に詳なり。(摂陽郡談卷第九 塚の部)

地元でも「荒木一族の墓」あるいは「村重の子ども」の墓といわれている。また、この墓は「頭の関係一頭痛に効く」といわれている。伊丹段丘の東斜面は藪であり、マダケが一杯あった。その下にカンボヨロイドオシというトゲのある赤い実のなる木があった。この幽霊坂は、うっとおしい所だった。また、墓はもっと藪のすごいところにあったものを、この道の側にもってきた。こ

の自然居士の墓が地名の由来となっているという。「自然」の地名が多く、また、それらが複雑に入り組んでおり、宗教的な由来のを有することは当然であろう。

11. 奥谷（オクダニ）

北村の奥谷の西、現市民プールあたり。

12. 草野（クサノ） 緑ヶ丘5・7

東野、大鹿および北村の3村が接する現在の総監部の交差点の少し東、およびその北側2ヶ所（総監部内）に飛び地で存在するところで、北村の最も西の部分である。前述の龍蓮寺に関係があるように考える。此の地は大鹿の人が耕作していた。原野。この西にある大鹿字主膳池は整地が出来るまで養鶏村があった。

北村・鋳物師村の小字

1. 庄境（ショウザカイ） 鋳物師4・5

「ショウザカイ」となまって、よんでいた。田地。北側を久代（川西）と接し、その名のとおり「北村の庄」と「久代の庄」との境であり、そのことから、この地名になったのではないか。なお、西に、伊丹段丘のすそを本村および伊丹郷町への用水の加茂井があり、その段丘の上には本村の墓地がある。（字 墓廻り）

2. 桑ノ本（クワノモト） 北伊丹8・鋳物師5

3. 野間（ノマ） 北伊丹8・鋳物師5

昭和12年頃工作機械製造会社が進出（坪8円位）

4. 北大柳（キタオオリュウ） 北伊丹8

「オオリ」「オオリイ」となまってよんでいた。

5. 南大柳（ミナミオオリュウ） 北伊丹8

6. 北見戸目（キタミトメ）（北見止・北見止目） 鋳物師3

7. 南見戸目（ミナミミトメ）（南見止・南見止目） 鋳物師3～5

8. 茂原（モハラ）（藻原） 北伊丹8・鋳物師3・5

9. 六ノ坪（ロクノツボ） 北伊丹7～8・鋳物師3 看板は六人坪

10. 高関（タカセキ・タカゼキ） 北伊丹7～8

少し高い地形

11. 坂之下（サカノシタ）（阪ノ下坂ノ下） 北園3鋳物3

北村の奥谷の西、現市民プールあたり。

12. 政次 (マサツグ・マサツギ) 北伊丹7・北園3

13. 明神前 (ミョウジンマエ) 北園3・鑄物師1～

西に加茂井、その上には、臂岡天満宮、稻荷社があり(字鑄物師)、ここから国道171号線をはさんで東に長方形に伸びた地域で、2つの字の飛び地を有する(字谷川・字谷口ノ上)。近くに「明神の社」があったのか。

14. 西ノ口 (ニシノクチ) 西之口 北伊丹3・北園3

本村集落部分(字南ノ町)の西にあり、旧北村の西にあり、鑄物師地区との出入り口というところからついたものであろう。

※当伊丹市域においては、「～口」とある場合は、ほとんどが(街道と)集落との出入り口になっており、方角を表しているものや、次の集落(村)の地名がついているものもある。口関連(大鹿口、昆陽口、御願塚口)

15. 奥谷 (オクダニ) 伊丹(本村「辻村」または「伊丹坂村」)

当地区の場所は「字鑄物師」(伊丹段丘の上)の南にあり、西北を伊丹段丘上にある伊丹池(伊丹字奥谷 現緑ヶ丘池)があり、西南は上記の奥谷(伊丹段丘の法面 現市営プールのあたり)の3方を囲まれたところであり、伊丹段丘が湾曲し、グルッと「へこんだ」ようになっているところで、かなりの高低差があり、北村の「奥谷」としては、まさにそのとおりである。荒地であり、ジメジメしていた。

16. 谷川 (タニゴ) 北伊丹3・北園2～3・鑄物師1

駄六川(ダロクガワ)のことを「タニゴ」あるいは「タニゴ川」という。当地区は前述の奥谷の東にあり、鑄物師地区の南を流れる駄六川は、奥谷の北西で激しく流れ落ち、奥谷を南西に回り込み、この谷川地区の南端(伊丹段丘のすそ)を通り、本村と辻村の境を南東に流れている。まさに、「奥谷から流れ出てきた川」のところにあたる。駄六川は、もともと、もっと、うねっており昭和の初めに改修され、現在に至っている。辻村の「谷口ノ上(タニゴノカミ)」とならんであり、双方の飛び地がある。

17. 西殿開地 (ニシトノカイチ・ニシトノガイチ) 北伊丹1・3・北園1～2

辻村の中心部(字西垣内)の北西にあり、さらに西に飛び地もあり、いずれも駄六川の南にある。

18. 東殿開地 (ヒガシトノカイチ・ヒガシトノガイチ) 北伊丹1・3・北園1

前記とは反対に東にあり(一部西にもある)、北東から南に(字前垣内)にまで飛び地が存在している。田地。此の地の多田街道沿いの小西松吉氏宅の北東に「地藏さん？」がある。上記の両地区の文字による表記は、なぜか欠落している。(番号がとんでいる)

19. 北浦 (キタウラ・キトラ) 北伊丹7

集落の中心部(字南ノ町)の北に位置するところから、「裏」を連想するが、果たしてそうだろうか。「浦」は日当たりの良い場所を示すという説もある。浦関連(西桑津・北河原・天津・南野・御願塚)

20. 長フケ (ナガフケ) 北伊丹6～8

北側に「字フケ」があり、この「長フケ」あたりは、その名のとおり「フケ田」(深い田の意)であ

り、地形も南北に長い。自然の用水バケ(吐)になっていた。

21. 松原 (マツバラ) 北伊丹6~8

南北に細長い地区で、北に「字フケ」があり、そこを流れてきた「東川」は北から東に、この地区に沿って流れている。天然記念物になるような一本松があった。

22. フケ (フケ) 北伊丹8

この地区も前記の「長フケ」と同じような「フケ田」である。

23. 正蓮畑 (ショウレンバタ・ショウレンバタケ) 北伊丹5~6・8

24. 北上川原 (キタカミガワラ) 北伊丹8~9

次の「南上川原」、後記の「上川原(辻村の飛び地)」と同じような地名3つが「上川原」を、南から包むようになっており、また、それぞれが「飛び地」として複雑に入り込んでいる地区である。猪名川は、後記の「北八人子」をはさんで東にある。

25. 南上川原 (ミナミカミガワラ・ミナミカミゴウラ) 北伊丹5~6・8~9

26. 北八人子 (キタハチニンゴ・キタハチニンゴ) 北伊丹9

「ハチリンゴ」となまって、呼んでいた。全体図から地名の表示が欠番となっている。この「八人子」と呼ばれる地区は、猪名川右岸の堤防敷およびその内側からなっている(軍行橋西あたり)。この堤防は「ゴンデン堤」と呼ばれ、西国街道になっており、その一部は「法健塔(ホウケントウ)」とよばれ、ここから、街道は南西に下り、進んでいた。興味深い地名であるが、不明である。

西野地区に「字十六名(ジュウロクナ)」「字二十二名(ニジュウニナ)」と呼ばれている所があり、十六名、二十二名で耕作していたところから、こういわれたとされている。後述の「田台坊」が宗教的な感じがあり、この「八人子」も同様に、宗教的な感じがする。

27. 南八人子 (ミナミハチニンゴ) 北伊丹5、9

ホウケントウ「法健塔・宝剣塔」

現在、JR福知山線と旧西国街道の交差する踏切にその地名が残されている。(もちろん、地元には残っているが)堤防上に記念碑?がある。地形的には、猪名川がこのあたりで西に曲がり「淵」になっていたところで、西側(堤防の内側)の所では、かなり低く、普段でもジメジメしており、少し雨が降ると、すぐ、池のようになる。地名的には「北八人子」は、猪名川川原の南3分の一、およびその西側(堤防の内側)中田台坊あたり。現在、伊丹市北村水源地がある。この由来であるが、「このあたりの堤防がよく決壊した」といわれているところから、治水のための「宝剣塔」が建てられていたのではないかと推測される。北河原の大鹿氏は「大雨が降ると(ホウケントウ)が危ない」ということで、父に連れられて行ったことがある。」とっておられる。地形的にもこのあたりが決壊すると、下流の北河原、天津は、もともと低いのでモロに影響をうける。天津が流されたのは、「ここが切れた」からであろう。また、このあたりは、夏の子どもの遊び場であった。少し、南に中村井の「ジャカゴ」で堰き止められた取水口があり、川はもっと高く、プール並の2m位の

深さになっていた。よくジャコ捕りもしたし、ブドウをこのあたりで冷やした。冷たい湧水が出ていた。この河原の土砂が採取されていた。大掛かりなもので、福知山線の引き込み線が敷かれていた。(南田台坊に集積場)

28. 北田台坊 (キタデンダイボウ) 北伊丹5

「田台坊」という地名は北・中・南の3つの地区があり、堤防の西側に並んでいる。また「僧坊一宿坊」を連想させるものである。西国街道沿いで、猪名川の渡しの西側に在り「僧坊」があってもおかしくはないし、その後「洪水で流されてしまった」ということではないだろうか。残念ながら、まったく手がかりは無いが・・・前記の「八人子」が北・南とあり、それに続く地域で、この「田台坊」が北・中・南とある。何か宗教的なことが窺える。

29. 中田台坊 (ナカデンダイボウ) 北伊丹5

30. 向川原 (ムカイガワラ) 北伊丹4~5

31. 南田台坊 (ミナミデンダイボウ) 北伊丹5

西国街道の南にあり、明治の末、北河原・天津地区とを併せて、一部耕地整理された。もともとは猪名川の土砂採集の集積場があった。昭和10年頃食用澱粉メーカーが進出し、現在はこれと水源地とがあり、一般の民家は無い。この地区も全体図から地名の表示が欠落している。

32. 東ノ口 (ヒガシノクチ) (東之口) 北伊丹4

西国街道が少し南に曲がる処から、北西(集落の南東)にあり、あるいは北・中田台坊の間から直接ここを通り村に入るところであり、集落のほぼ東にあり、まさに集落の東の出入り口である。東ノ口関連(大鹿・千僧・天津・野間・寺本)

33. 前畑 (マエハタ・マエバタケ) 北伊丹3~4

集落の中心「字南ノ町」の南東に隣接しているところから、「村(集落)の前(南)にある畑」であろう。前畑関連(北河原字前田・森本字前田)

34. 投田 (ナゲタ) 北伊丹2~4

西国街道の北側に沿っている地域で「ドブ田」であった。

35. 石川原 (イシガワラ・イシガガワラ・イシゴウラ) (石河原) 北伊丹2~4

西国街道から南に出た地域で、そのうちのおよそ東半分が「字南田台坊」とともに一部耕地整理されて、その後、「字石河原」に変えられた。伊丹から、この石川原・石河原間を通り、西国街道と合流する道が伊丹からの「妙見道」であった。

36. 墓廻り (ハカマワリ) 緑ヶ丘7・鋳物師4

伊丹段丘の当市域の北東端にあり、本村(北村・鋳物師村)の墓地がある。果樹園・その他

37. 北苔原 (キタコケハラ) (北苔ヶ原キタコケガハラ) 緑ヶ丘7

「コケワラ」となまって、呼ばれる。この地区は北は川西に接し、北側は自衛隊、南側は県立伊丹高校で民家は無い。

38. 南苔原 (ミナミコケハラ) (南苔ヶ原ミナミコケガハラ) 緑ヶ丘7

「字北苔原」の南にあり、大部分は県立伊丹高校である。

39. 墓ノ前（ハカノマエ） 緑ヶ丘7・鋳物師2～4

前記の「字墓廻り」の南にある。この地区の中央あたりに「カゴ池（カンゴ池）」と呼ばれる5～600坪ほどの池（現在の国鉄宿舎・東緑ヶ丘センターなど）があった。このカゴ池は文字どおり「カゴ＝ザル」で水がすぐにすいてしまう池であった。

この「墓ノ前」には所々に「塚」らしいものがあった。一つは、この池の中、次は県立伊丹高校の中、3つ目は公園の法面（工作機械製造会社が撤去してしまったという）

40. 辻ノ内（ツジノウチ） 緑ヶ丘4・7・鋳物師2

東に「カゴ池」、西に「良蓮寺」があり、鋳物師の集落の範囲であり、鋳物師から山本・中山へ向かう道と、大鹿村から久代・加茂を経て、池田・妙見へ向かう道の交差点「辻」の範囲であったのではないかと、なお、前述のとおり遺構が発見されている「伊丹廃寺のもの」か「良蓮寺跡のもの」か興味があるが、いずれにしても、この地区も「寺域内」と思われる。

41. 北出口（キタデグチ） 緑ヶ丘7

この「出口」はどこからの出口であろうか、鋳物師のものか、あるいは「二寺」のものか、興味があるが、不思議なことは、西に小さな「字草野（辻村の飛び地）」をはさんで「北出口」があり（北出口が2つになっている。）、さらに、この南に隣接して「字南出口」がある。そしてその南に「北良蓮寺」続いて「南良蓮寺」がある。このあたりの北側の久代地域にも「寺」や「屋敷」だけでなく「道蓮寺」の地名があることから「伊丹廃寺」や「良蓮寺」を現在の市域に限定して比定するのは誤りかもしれない。また、「いもじ千軒」といわれたことから、「鋳物師」の集落かあるいは「久代の集落」あるいは「寺」なのか。

42. 南出口（ミナミデグチ） 緑ヶ丘7

※ 「出口」について「～口」については、「字西ノ口」のところで述べているが、この場合はどうであろうか。当市域には「出口」がかなりある。前記は一般的に集落の出入り口であり、この場合はもっと、小さい「寺社」の出入り口と考えることは出来ないであろうか。紹介している当市域の場合は、ほとんどが「寺社のある地区」に隣接しており、街道に接しているが…。また、なぜ、「入口」が無いのであろうか、宗教的な面も考えるべきか。ただ、この地区の場合は北・南が接しているため、このように考えるのは難しい。

43. 北良蓮寺（キタロウレンジ・キタドウレンジ）（北龍蓮寺） 緑ヶ丘7

土地は高く、大きな石がゴロゴロあった。一つは天神社の社殿の雨うけとなっている。この地域は大鹿の阪上氏（元市長）の所有であった。石は大鹿の人が持って帰った。

44. 南良蓮寺（ミナミロウレンジ） 緑ヶ丘4～5・7

45. 西開地（ニシカイチ・ニシガイチ） 緑ヶ丘3・4、鋳物師2

少し低くなっている。南に駄六川が流れている。畑地。「鋳物師の西に開いた所」というべきか。

46. バン田（バンダ） 緑ヶ丘2～5

この地も、少し低い田であった。

47. 神楽塚（カグラヅカ） 緑ヶ丘1

この地は現在、緑ヶ丘公園になっている。地内に「上池(ウワイケ)」「下池(シタイケ)」いわゆる緑ヶ丘池がある。

この「池」は「伊丹池」であり、伊丹郷町の所有である。(字奥谷)が元禄6(1693)年大路4村(北村)が、奥谷池の用水を抜き取り、その所有をめぐる、伊丹郷町村と争った。(伊丹市史2-313)「池の底に所有の証拠の石があった。」この周りは立派な松林で、「上池」のあたりには、マツタケ、シメジ、ベニタケがよく生えていた。また、上記とは反対に元禄8年奥谷池周りの松林を伊丹郷町のもの切り取り、郷町と大鹿村が争った。(伊丹市史2-314)

48. 西自然 (ニシジネン) 緑ヶ丘1、高台4

奥谷の南(ガケ)の上にある。そして次の「東自然」と並んであり、その南に少し、「南自然」を挟むように、東から「自然」、西から大鹿村の「自然」が存在している。「北自然」はなぜ無いのであろうかという事と併せて、「自然」の意味は興味を惹かれるところである。

49. 東自然 (ヒガシジネン) 高台3~4

現在、大部分が大手光学器メーカーの会社になっている。

50. 天神前 (テンジンマエ) 緑ヶ丘1、高台1~4

「臂岡天満宮」と関係があるのであろうが、少し離れており、天神前という距離ではない。現在西側の3分の1程は東中学校になっている。

51. 木仏 (キボトケ) 高台3~4

ほとんどが畑(一部果樹園)であった。次の「石仏」は、この地の東にあり、相互に関係があるのであろう。また、龍蓮寺との関係についても興味のあるところであるが、不明である。此の地に大手光学器メーカーのテニスコートがあるが、その中に石が積まれており、そこに、「蓮台」あるいは「礎石」らしき、ひとかかえほどの石を確認しているが、関係は不明である。

52. 石仏 (イシボトケ) 高台3・5

この地も大部分が畑(一部果樹園)ばかりであった。また、「字自然」の中に、4つの部分の飛び地で存在している。その一番南の現伊丹坂マンションの南隅に地蔵がある。

53. 南自然 (ミナミジネン) 春日丘2~3・5~6、高台1

伊丹坂村の集落の西及び私立幼稚園の2ヶ所と字村畑にある飛び地との3ヶ所となって、大部分が西国街道沿いにある。

54. 川原町 (カワラチョウ) 北伊丹3~4・6~7

集落の中心部の北東にある。

55. 南之町 (ミナミノチョウ) (南ノ町) 北伊丹3

集落のまさに中心部であり、多田街道がその真ん中を通り、西には鋳物師地区への道もある。教善寺もこの地にある。

56. 鋳物師 (イモジ) 鋳物師1~3

鋳物師地区の中心であり、天満宮や稲荷社がある。

鋳物師の存在は不明であるが、伊丹廃寺や龍蓮寺から、この地区は古くから栄えたと思われる。この地区を中心に昭和46年8月2日に町名変更がなされたが、従来の地区の小字地名を新地名に使ったのはこれが最初である。天神社の前(南)に「安楽寺跡」の碑がある。

京都空也堂の叩鐘の銘に、天曆十年伊丹住貞俊作と見ゆ。こは空也上人のことおほせて鑄させられし也。今も摂津国伊丹の里より、廿町ばかり乾に、鑄物師村有。昆陽のちかきわたりなれば、昆陽寺の鑄物師が未など、世々ここは住たりけん。

「擁書漫筆」卷二(高田与清)文化 14 年(1817)

自衛隊の伊丹市に設置にかかる経緯については、前述の「ふるさと春秋」に「昔も今も要塞」の項に掲載されている。

(文責：足立繁)